2025~2030 **IN-11**

民工芸・伝統芸能は、マニュアルの自動生成や、3Dプリンタによるデジタル再現により、後継者がいなくても文化が保存される

概要

鳥取県にはしゃんしゃん傘（因幡の傘踊り）や弓浜絣など民工芸品や伝統芸能が多く存在しているが、作り手の高齢化や後継希望者の減少傾向により、技能・ノウハウの断絶が懸念されていた。
しかし、職人や技能者の作業・動作を詳細に映像やインタビュー、モーションキャプチャー等で記録し、デジタルデータとして保存することで、広く共有知として保管できるようになったうえ、後継者がすぐに見つからなくても将来的に誰かが確認できる状態となる。
後継者が現れた際には、収録したデータをもとに製作ノウハウを自動インプットしたデジタル職人が画面に現れ、弟子の様子をカメラで検知し、リアルタイムでの指導が可能となっている。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは	これからは
民工芸・伝統工芸の後継者が育たず、技能・ノウハウ等が断絶してしまう	ノウハウのコンテンツ自動生成や、AIやVRを活用したリアルタイム指導、3Dプリンタによるデジタル製造再現により、文化が保存される